

目次	第8回大会報告(続報)	367
	日本地衣学会第8回大会評議員会報告 / 小峰 正史(庶務幹事) ..	367
	地衣学会に参加して / 田中 斐子	369
	地衣学会に参加して思ったこと / 福丸 美怜	369
	会員通信	369
	廃車についてウメノキゴケ / 川名 興	369

第8回大会報告(続報) Reports of the JSL 8th Annual Meeting (Continued)

日本地衣学会第8回大会評議員会報告 / 小峰 正史(庶務幹事)

Report of the Councilors' Meeting at the 8th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology, 11 July 2009 / by Komine M.

第8回大会定例評議委員会が7月11日、京都学園大学で開催されたので報告する。議事においては、2008年度事業報告ならびに2008年度決算、監査報告があり、承認された。つづいて2009年度事業計画案、2009年度予算案の説明があり、いずれも承認された。

[2008年度事業報告]

1. 会員数報告
2. 主催大会、シンポジウム、プロジェクト等
 - 1) 日本地衣学会第7回大会・シンポジウム(秋田県立大学、7月5~6日)
 - 2) 第7回観察会(熊本県山鹿市八方ヶ岳、11月29~30日)
 - 3) 日本の地衣フロラ解明プロジェクト(「日本の地衣フロラ解明プロジェクト」委員会)
3. 印刷物発行等
 - 1) 学会誌「Lichenology」7巻1号、2号
 - 2) 日本地衣学会 Newsletter 発行 No.87~93
 4. 地域事業(地域活性化委員会主催行事)
 - 1) 秋田ワークショップ(第6回、8月8日~12日、秋

- 田県大)
- 2) 第23回青空地衣教室(6月7日、千葉、銚子海岸)
- 3) 第24回青空地衣教室(7月7日、秋田県、田沢湖・秋田駒ヶ岳)
- 4) 第25回青空地衣教室(8月9日、秋田県、素波里湖)
- 5) 第26回青空地衣教室(9月14日、栃木県、足尾町銀山平)
- 6) 第27回青空地衣教室(9月26日、剣山)
5. 2008年度決算報告・監査報告
6. 入・退会者承認

[2008年度事業計画]

1. 学会運営
基本目標として、体制継続整備を進めつつ、国内・海外との交流を強化することとした。
2. 事業計画
 - 1) 日本地衣学会第8回大会・シンポジウム(京都学園大学、7月11~12日、委員長: 關谷次郎)
 - 2) 第8回観察会(栃木県日光市銀山平・小田代ヶ原、9月12, 13日、世話人: 木下靖浩、安斉唯夫、小澤武雄)

- 3) 日本の地衣フロラ解明プロジェクト（「日本の地衣フロラ解明プロジェクト」委員会）
3. 印刷物発行等広報活動
- 1) 学会誌「Lichenology」8巻1号発行(7月), 8巻2号発行(12月下旬)
4. インターネット関連（HP運営委員会制作・運営）
5. 地域事業（地域活性化委員会主催行事）
 - ・地衣青空教室
 - 第28回青空地衣教室(6月7日, 神奈川県箱根)
 - 第29回青空地衣教室(7月13日, 京都府京都大学芦生演習林)
 - 第30回青空地衣教室(8月8日, 秋田県男鹿半島)以下随時開催
 - ・ワークショップ（第7回, 8/7-8/11, 秋田県大）
6. 2008年度予算案(資料1)
7. 審議事項
 - 1) 名誉会員として前学会長吉村庸氏が推薦され, 総会にて承認された.
 - 2) 評議員の増員について協議され, 役員等の選出についての細則の第4条の約1名を若干名に修正することが決定された.

- 3) 学術奨励賞創設が承認され, 選考基準などこれから審議することが決定された.

[その他]

1. 編集委員会, 地域活性化委員会, ホームページ運営委員会より活動報告があった.
2. 日本地衣学会第9回大会・シンポジウムを, 原田浩氏を大会委員長として千葉県立中央博物館で開催することが決定した. 日時について後日決定することとした. 学会観察会は高橋奏恵氏を世話人として広島県で開催することとした.
3. 学会創設より8年が経過し, 会員の身分・住所などの実態について不明瞭になっているため, 実質会員数の調査を行うこととした.
4. 昨年度評議員会で創設が認められた学生発表A賞に, 小杉真貴子氏(兵庫県立大学大学院), 学生発表B賞 Heng Luo 氏(順天大学大学院), 臼庭雄介氏(秋田県立大学大学院), 奥田智子氏(関西大学大学院), 佐藤ひかり氏(秋田県立大学大学院)が選ばれ, 7月12日の口頭発表終了後, 表彰された(図1).



図1. 学生発表賞を受賞した皆さん. 左から臼庭, 佐藤, 小杉, Luo, 奥田の各氏.

地衣学会に参加して

／田中 斐子（明治薬科大学・生薬学教室・修士1年）
My Experiences at the JSL 8th Annual Meeting at
Kameoka, Kyoto, July 2009 / by Tanaka A.

私は今回初めて地衣学会に参加させていただきました。また自分にとって学会という場も人生で初めてだったので会場に着くまではとても期待と不安の念でいっぱいでした。そんな中、学会の開催地である亀岡の大地を踏みしめて感じたのは、とても自然豊かで地衣も多そうなのとも地衣学会に相応しい場所だと言うことでした。初日は地衣の分類に関する発表が多く、地衣の成分探索をテーマとして研究している自分としてはとても新鮮な驚きでいっぱいでした。そして特別講演の今村先生の講演では、最初感じた亀岡の自然についていろいろなお話を聞くことが出来て為になり、また興味深かったです。懇談会では多くの先生方とお話することが出来、とても有意義な時間が過ごせました。懇談会自体はとても和やかで、やはり同年代の地衣研究に携わる方々といろいろ話すことができたのが嬉しかったです。そして、先生方にも気さくに話しかけていただいた上に様々なお話をさせていただいて自分にとってとても大切な時間となりました。2日目は発表の数も多く、地衣について多岐に渡る発表だったので多くのことを学ぶことが出来ました。中でも地衣類の人工培養の発表はとても興味深いものでした。

今大会を終えて、次大会では是非自分でも発表できるようにこれからも研究を進めて行きたいと思いました。

地衣学会に参加して思ったこと

／福丸 美怜（明治薬科大学・生薬学教室・修士1年）
My Impression for the JSL 8th Annual Meeting at
Kameoka, Kyoto, July 2009 / by Fukumaru M.

私が学会というものに参加するのは今回の地衣学会が初めてでしたが、全体的な感想を一言で表すならばとても「アットホーム」な雰囲気であるという事でした。それを一番感じたのは懇親会の時です。誰とでも気兼ねなく話せる雰囲気があり、参加前は正直、知らない土地であり知り合いも居らず不安な気持ちが大きかったのですが、大分肩の力を抜く事が出来ました。その一方で講演では適度な緊張感があり、各々自分の研究成果を堂々と発表している様子を見ていて、今回は私も発表しよう、と気合を入れ直す良い機会にもなりました。

今回、二日間にわたり講演を聴かせて頂きましたが、「地衣類」という枠組みの中でも色々な方向性があることを改めて感じました。自然界における地衣類をとりまく環境や形態的特徴などによる分類の様に、多方面から観察をする事もあれば、人工的な栽培・培養方法の様に色々手を加えて確立させるものもあり、また、地衣類の紹介でよく使われる「藻類と菌類の共生体」という所から両者が共生している理由を考え、光環境とその阻害防御機構や抗酸化活性の検討といった研究分野があったりと、小さな生き物を相手にしているとはいえ本当に奥が深いと感じました。また、今村先生の特別講演では地衣に限らず亀岡の自然についてお話して頂き、個人的には「みんな、つながっている」という言葉が印象的でした。今回の学会に参加して、地衣をより身近に感じる事が出来ました。ありがとうございました。

会員通信 From Members

廃車についてのウメノキゴケ / 川名 興（千葉県富津市）

Parmotrema tinctorum growing on an abandoned car / by Kawana T.

2009年9月6日、千葉県南部、上畑・湊線県道182号線の富津市山中、下沢の笹生平氏の家登り口で車を止めると、目の前に日本国有鉄道大船工場の名が入った廃車があった。その後部には、ウメノキゴケが着いている

ではないか。残念ながらカメラを持ち合わせていなかったため、出直すことにした。

同年9月16日撮影。笹生氏に伺うと、もう40年以上経っているという。奥さんの話では最初はもう少し南側

に置いてあったとも、なお、このウメノキゴケの上部には蘚類のギンゴケ、ナガヒツジゴケ、ハイゴケが付着していた。蘚類の同定は千葉県立中央博物館の古木達郎氏にお願いした。御礼申し上げます。

産地データ： 千葉県富津市山中下沢【2万5千分の一地形図＝金東；千葉県メッシュコード番号6713】、標高190m。
[Japan, Honshu, Chiba-ken, Futtsu-shi, Yamanaka, Shimozawa, 190 m elev.]



図1. 廃車とウメノキゴケ。A, 問題の廃車の後部(矢印)にウメノキゴケがつく。B & C, 後部左側にウメノキゴケが2個体(?)見える。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 100, pp. 367-370: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by the *Japanese Society for Lichenology*, 7 Nov. 2009.

日本地衣学会ニュースレター 100号

発行日：2009年 11月 7日

編集： 原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2009 日本地衣学会 (© 2009 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。